

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・准教授

氏 名：野尻 紀恵

研究課題名：美浜町における子どもの夜の居場所支援の研究

～食をともなうコミュニティ創造のプロセス～

### 研究の目的

■子どもの貧困、孤立などの問題状況に対して、全国各地で学習支援や子ども食堂が行われるようになった。例えば「子ども食堂」の取り組みでは、地域の潜在的な資源が活用され、居場所というコミュニティを形成している。このような取り組みは、子どもたちに安心した食事の場を与えるだけでなく、そこに集う大人たちもつながり、多様な関係性が紡ぎだされている。しかし、これらの取り組みは、実践報告がされてはいるものの、そのコミュニティがどのように形成され、どのようなつながりが生まれているのか、子どもたちはどのように育っているのか、など詳細な実態は明らかにされていない。そこで、本研究では、子どもを中心に据えたコミュニティ形成の様態を参加者の変容という視点から明らかにしていくことを目的とする。

### プロジェクト目標の達成状況・成果内容

■研究内容として、以下の3点に取り組んだ。

- イ) 美浜町における子ども・子育ての課題について調査
- ロ) 美浜町奥田地区における子どもの居場所支援（子ども食堂を含む）の継続実践
- ハ) 美浜町内に子ども支援の地域福祉拠点の開始を検討

以下にそれぞれの達成状況と成果内容について記載する。

イ) 美浜町における子ども・子育ての課題について調査

#### 【達成状況】

学校・主任児童委員・社会福祉協議会・NPO等、子どもを支援する方々から聞き取り

#### 【成果内容】

美浜町における課題がより明らかになる（以下、主な内容）

- ①要保護児童の存在とケースカンファレンスの難しさ
- ②学校で発見された家庭の課題に学校が介入

できない難しさ

知ったとしても問題解決の手法がない  
スクールソーシャルワーカーが雇用されておらず必要な子どもに支援が届かない

- ③子ども・子育てのための社会資源が乏しい
- ④子育ての課題は家庭の責任だという考え方が強かったが昨年から引き続き地域で居場所支援を行うことで、考え方が少しずつ変化してきたように思う。

### ロ) 美浜町奥田地区における子どもの居場所支援（子ども食堂を含む）の継続実践

#### 【達成状況】

本学社会福祉学部野尻ゼミの学生を中心として、奥田地区にて、子どものための夜の居場所支援の実践を継続した。

#### ◇2017年8月～2018年1月

本学社会福祉学部野尻ゼミの学生（研究代表者のゼミ生）が、「ふぁみりー基地（通称：ふぁみ基地）」と名付け、奥田地区にあるNPO法人チャレンジドにて、実際に子どものための夜の居場所支援を実践することができた。

#### ◇2018年2月～2018年3月

本学Cラボにて、子どものための夜の居場所支援「ふぁみりー基地（通称：ふぁみ基地）」を実践することができた。

#### ◇2018年4月～現在に至る

知多奥田キリスト教センターにて、ふぁみりー基地（通称：ふぁみ基地）」を実践することができた。

◇次年度も知多奥田キリスト教センターにて継続実施予定

#### 【成果内容】

学校の教員や、行政の方々、社会福祉協議会の方々が、学生という存在を介して、繋がり継続的に持つことができた。地域におけるしがらみや、動き辛い部分もある中で、学生（のような）という変化を促す存在が投げ込まれたことによって、そこに繋がる支援者が互いに近づくということが、実際に観察できた。ややもすれば硬直した地域になりがちな美浜町で、子ども自身がエンパワメントされる場作りができた。事情を抱えていた子どもも、進路を確定したり、生き生きと活動する場面が多く見られた。子たちの変化やつながりを喜んでくれる地域の大人が増え、子どもを真

ん中に置いたまちづくりにひと役買うことができた。

地域からは、この居場所は無くてもならない場所になってきた、と評価いただく声も聞かれた。さらに、地域で「何かをしたい」と思っていた方々が動き始めることが、実際に観察できた。さらに、その方々の動きが広がり、次の活動へと繋がっていくことも観察でき、次の居場所支援の場作りへと展開されることになった。

#### ハ) 美浜町内に子ども支援の地域福祉拠点の開始を検討する

##### 【達成状況】

居場所が子ども支援の地域福祉拠点になる可能性が見えてきた。

子育ての相談や、何気ない会話からの気づきが生きていくに重要な活力をもたらす。

##### 【成果内容】

\*見えてきた今後の可能性

- ①「ママ友には言えない悩みが学生さんには言える」と。母親にとっても居場所となる。
- ②孤食の本学学生が100円を持って「ふぁみ基地」にやってくる
- ③他学部、他ゼミの学生が手伝いに来てくれて、子どもと接することに慣れてきた。子ども支援の地域福祉拠点となり得る可能性が見えてきた。

写真：「ふぁみ基地での様子」  
(写真掲載の許可を得ています)



食事を提供することを  
ゴールにしない



食事を一緒にすることで  
スタートする！

つながりを創って葉っぱを茂らせる

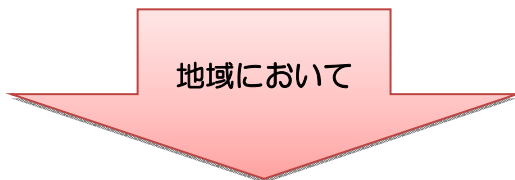


②子ども支援の地域福祉拠点への可能性が見えてきた点

\* 共に学び合う場としての居場所



学習支援は単なる進学支援ではない  
子ども食堂は単なる食事の場ではない



提言：進路保障という考え方 \* 生き方支援 \*

③子ども居場所支援における学生の交流からの学び



写真：日本福祉大学社会福祉学部地域福祉コース  
野尻ゼミ生「ふあみりー基地」と  
神戸大学人間発達学部「あーち」「よる・あ  
ーち」の取り組み交流の場面

於：日本福祉教育・ボランティア学習学  
会 第24回あいち・なごや大会  
「学生ポスター交流」（2018年11月）

優れた成果があがった点

研究期間終了後の今後の展望

美浜町を対象に、子どもの夜の居場所づくりを「食」を通して行う意義と可能性について実践的に検討を行うことを継続する。本学学生による夜の子ども居場所支援（子ども食堂を含む）の実践を継続することによって、地域の変容、子どもたちの変容を研究者による参与観察で記録する。これらの継続実践をさらに行うことによって、

- ① 子ども支援の地域福祉拠点づくりについて、理論に基づいた分析
- ② 地域に生きる子ども達を中心に据えた「地域包括」のシステムづくりの検討

を行うことにより、美浜町の子どもの支援の場づくりを実践研究する。